

第17回独立行政法人農林漁業信用基金農業信用保険業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和5年9月22日(金) 13時00分～15時06分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

2 出席者

※村田委員はウェブ会議形式での参加であった。

(1) 運営委員

出 資 者：川田委員、岸田委員、工藤委員、藤原委員、三井委員

学識経験者：平田委員、水上委員、村田委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

(2) 信用基金

牧元理事長、深水副理事長、北村総括理事、北理事

(3) オブザーバー

笹川財務省大臣官房政策金融課課長補佐

宮田農林水産省経営局金融調整課課長

丸山農林水産省経営局金融調整課課長補佐

3 提出議案

(1) 審議事項

① 運営委員会運営規程の変更(案)について

② 運営委員会運営細則の廃止(案)について

(2) 報告事項

① 令和4年度の業務の実績に関する評価について

② 中期目標期間(平成30年度～令和4年度)における業務の実績に関する評価について

③ 令和4年度決算について

④ より望ましい保険料率体系の検討について

⑤ 農業信用保険業務の概況分析について

(3) 情報提供事項

食料・農業・農村基本法の見直しの方向について

(4) その他

委員からの情報提供

4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)の議案について信用基金から説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり承認された。

また、信用基金から上記3(2)に従って報告、(3)に沿って宮田金融調整課課長より情報提供がなされた。その後、(4)において運営委員から経営状況等について情報提供がなされた。運営委員からの主な発言等は以下のとおり。

【意見等】

(1) 審議事項

(質疑なし)

(2) 報告事項

「令和4年度の業務の実績に関する評価について」

- 令和4年度の業務の実績に関する評価のうち、②適切な保険料率・貸付金利の設定について、自己評価はA、主務大臣評価はBということだが、中期目標期間全体ではAなのに令和4年度の年度評価がBというのが、腑に落ちないところがあるので、もう少し詳しくお教え願いたい。

（第4期中期目標期間においては、中期目標期間中に信用リスクに応じた保険料率を導入するよう指示されていたため、令和4年度までに導入すれば良かったが、令和2年度から導入したことで、農業者の方に対して一定程度の裨益が早く及んだということが高く評価いただき、期間全体としてはAと評価していただいた。令和4年度も引き続き、その効果は及んでいるが、令和4年度に実施した取り組みとしては高く評価できない、ということで令和4年度の年度評価はBとなった。）

「より望ましい保険料率体系の検討について」

- 生活資金は理論値より高く、農業資金は理論値より低くなっており、収支が均衡していないということであった。今後の見直しの中で、収支バランスの乖離がある資金について、収支バランスが改善するように見直すということだが、信用基金の見通しとして、どの程度に落ち着かせようとしているのか。

（農業者に与える影響や基金協会以外の保証機関との競争も考えて決めていかないといけないので、今の時点で申し上げられる状況にはないが、整理ができた段階で早めに基金協会の皆様に御意見をいただくようにしていきたい。）

（3）情報提供事項

「食料・農業・農村基本法の見直しの方向について」

- 今、農業の現場は本当に厳しい。今年は過去最高の夏場の高温となっており、日本で夏場に適切に野菜が作れるのかと感じている。農業者の努力だけでは出来ないところを、皆さんの力で成し遂げていただきたい。

（4）その他（委員からの現況報告）

- 全体に占める農業資金のウェイトが小さくなっている。食料・農業・農村基本法の見直しについて御説明があったが、農業の担い手に対する支援が実効性のあるものに繋がっていくことを期待したい。
- 大口の農家が疲弊していて厳しい状況。当県は畜産・酪農が多いが、飼料や燃料のコストアップで非常に苦しい状況である。
- 当県は他県と異なり、まだ住宅需要は落ち込んでおらず、昨年より好調に推移している。
- 夏場、屋外で農作業をしていると、暑すぎて、産業として成り立つのかという心配がある。担い手の減少も驚くほどのスピードで進んでいる。原料価格の高騰もあり、経営が苦しくなる中で、減価償却費を圧縮するしか経営改善の方法がない。そのためには機械をフル活用するしかなく、一定の規模以上の農家でないと生き残れなくなるのではないかと非常に不安である。
- 農業の現場で、問題点が積み重なってきている。農業経験20年になるが、今が一番きついのではないかと思っている。しかしながら、日本の農業を私たちが支えていき、皆さんにしっかりと食料を供給していく事を任務として頑張っていきたい。

以上